



**大間町
まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン改訂版**

**令和7年(2025)年4月
青森県大間町**

目次

1 人口動向分析等	1
（1）時系列による人口動向分析	1
（2）年齢階級別の人口動向分析	8
（3）地域別の人口動向分析	10
（4）就業人口等産業動向分析	11
（5）まとめ	15
2 将来人口展望	
（1）人口のシミュレーション	16
（2）将来人口の展望	17
（3）大間町が目指す目標人口	18

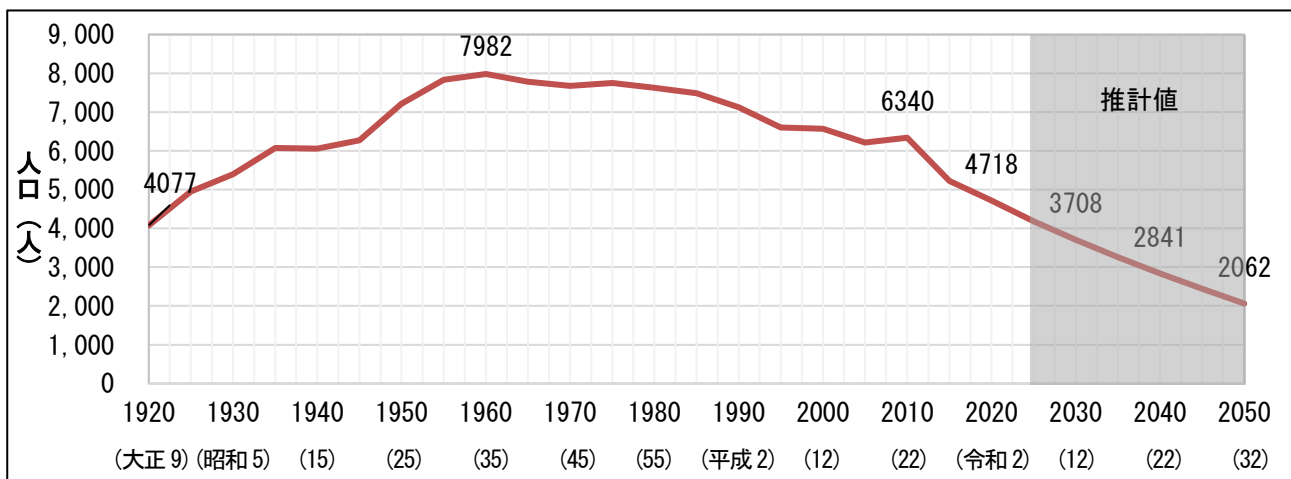
1 人口動向分析等

(1) 時系列による人口動向分析

a. 総人口の推移

- ・ 当町の総人口は、昭和 35 年（1960 年）をピークに一貫して減少しており、令和 2 年（2020 年）は 4,817 人とピーク時の約 6 割となっています。
- ・ 国立社会保障人口問題研究所によると、令和 32 年（2050 年）には 2,062 人（令和 2 年（2020 年）から約 42% 減少）と著しく減少するものと推計されています。

図 1-1 総人口の推移



資料：日本の地域別将来推計人口（国立社会保障人口問題研究所）

注：昭和 20 年（1945 年）は終戦の年であるため、実際の国勢調査は、昭和 22 年（1947 年）に行われていますが、便宜上、昭和 20 年としています。

b. 年齢3区分別人口の推移

- ・当町では、年少人口、生産年齢人口ともに一貫して減少しています。
- ・老年人口は増加が続き、平成12年(2000年)以降は年少人口を上回っている状況であり、令和32年(2050年)では、老年人口が総人口に占める割合は58.6%、年少人口は4.5%以下となるものと推計されています。

図 1-2 年齢3区分別人口の推移

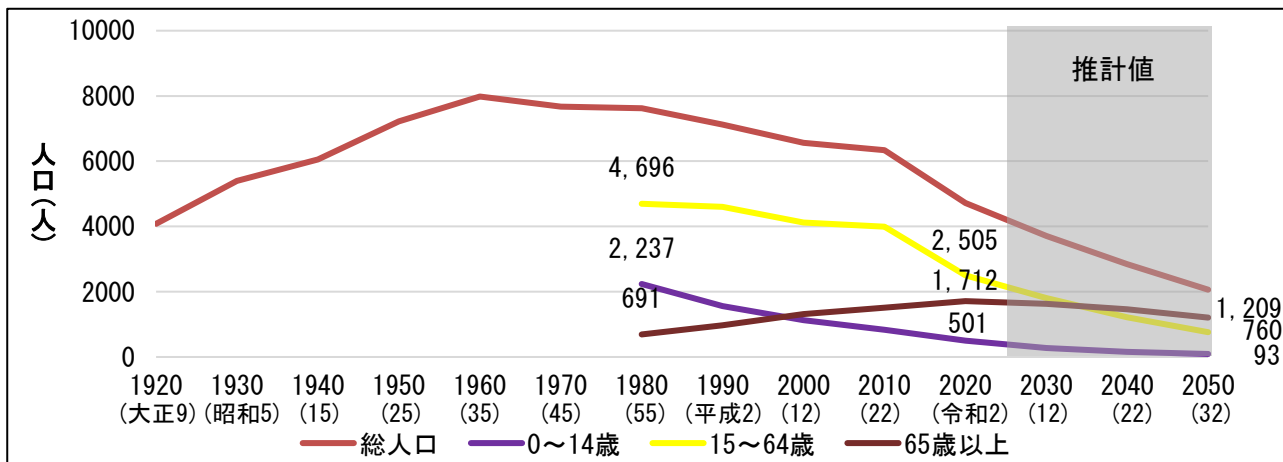


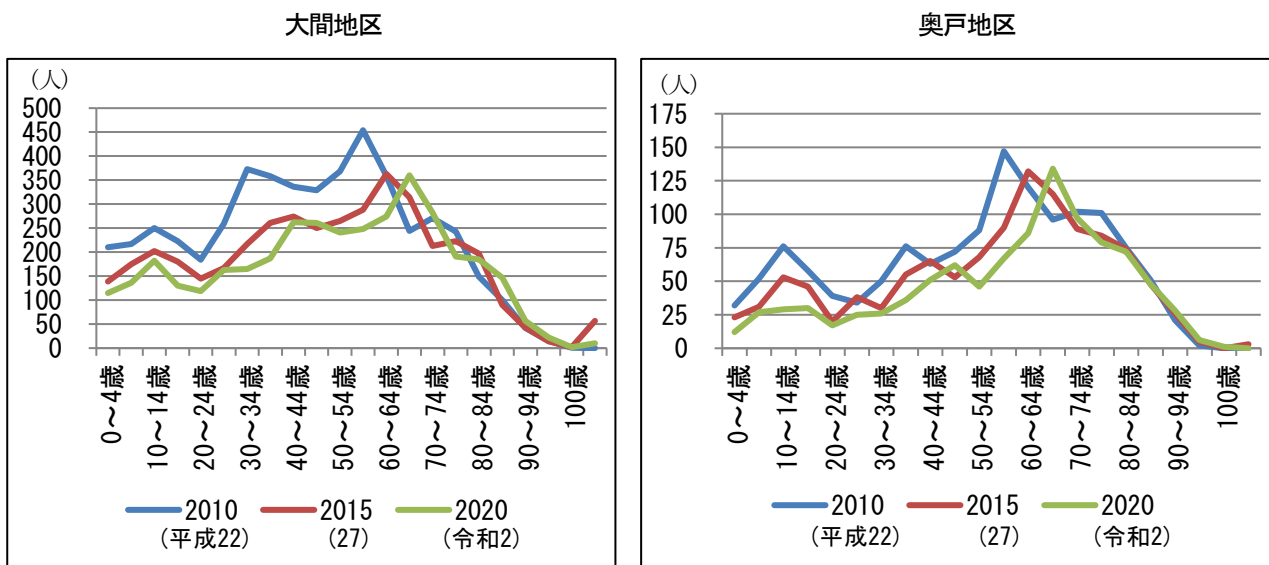
表 1-1 総人口における年齢3区分の占める割合

	実績値 ←					→ 推計値		
	1980	1990	2000	2010	2020	2030	2040	2050
0~14歳	29.3%	21.9%	17.3%	13.2%	10.6%	7.4%	5.5%	4.5%
15~64歳	61.6%	64.5%	62.7%	62.9%	53.1%	48.6%	43.0%	36.9%
65歳以上	9.1%	13.6%	20.1%	23.9%	36.3%	44.0%	51.5%	58.6%

資料：住民基本台帳（総務省）

<地区別年齢別人口の推移>

図 1-3 地区別人口

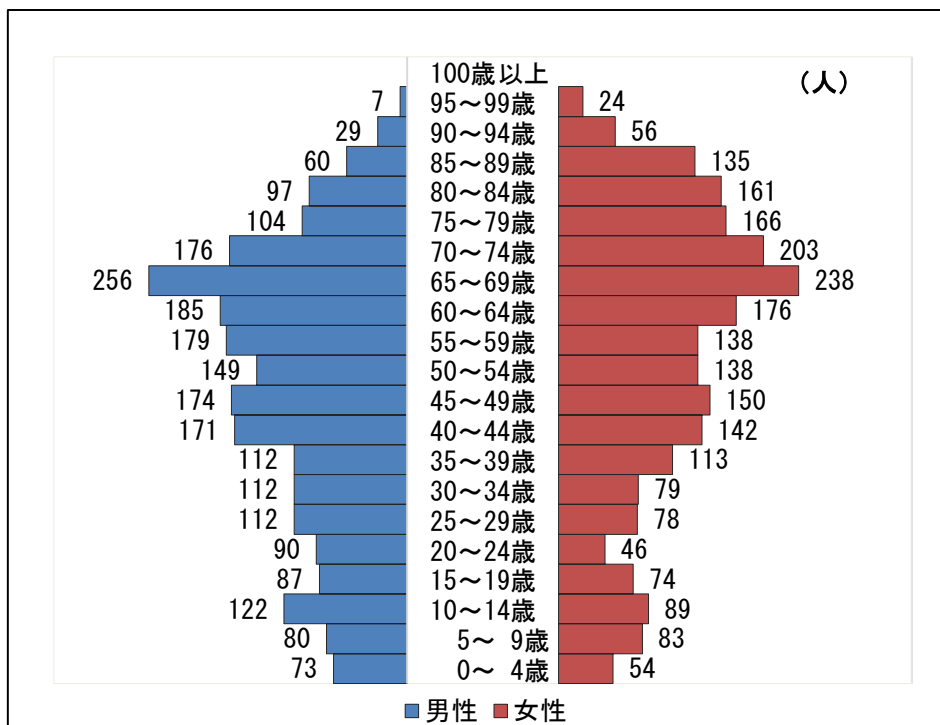


資料：国勢調査（総務省）

<年齢階級別人口構造>

令和2年（2020年）の5歳階級別の人口構造をみると、60歳から74歳の人口が占める割合が大きくなっています。人口ピラミッドをみると、少子高齢化社会で典型的にみられるつぼ型になっています。

図 1-4 年齢階級別人口構造



資料：国勢調査（総務省）

c. 出生・死亡、転入・転出の推移

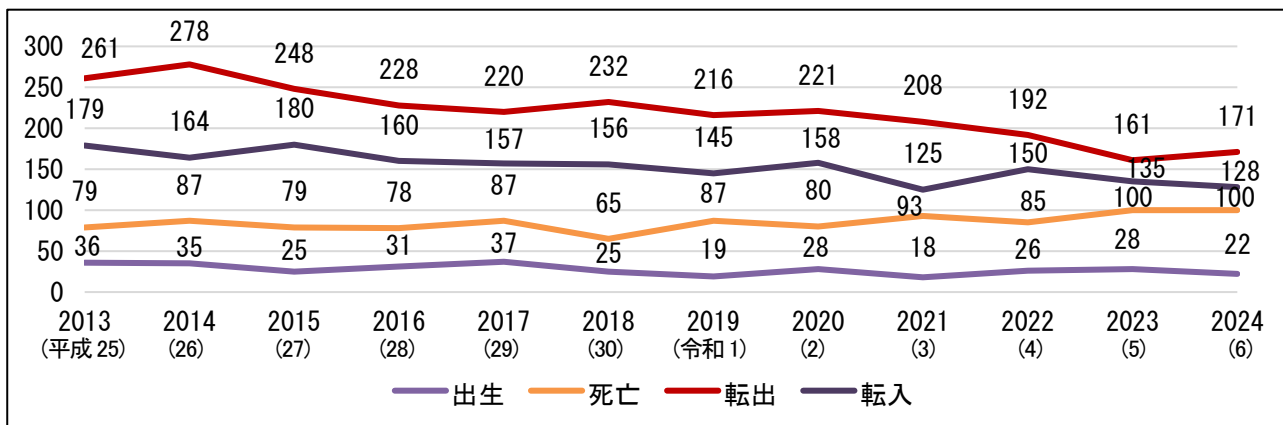
<出生・死亡>

- ・当町の出生数は、昭和55年（1980年）以降、概ね減少を続けており、平成25年（2013年）以降は30～40人程度で推移していましたが、令和6年（2024年）では22人となっています。
- ・死亡数は概ね増加傾向となっており、令和6年（2024年）では100人となっています。
- ・平成11年（1999年）以降は、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています。

<転入・転出>

- ・転入・転出の状況を見ると、概ね減少傾向が続いています。

図 1-5 出生・死亡数、転入・転出数の推移



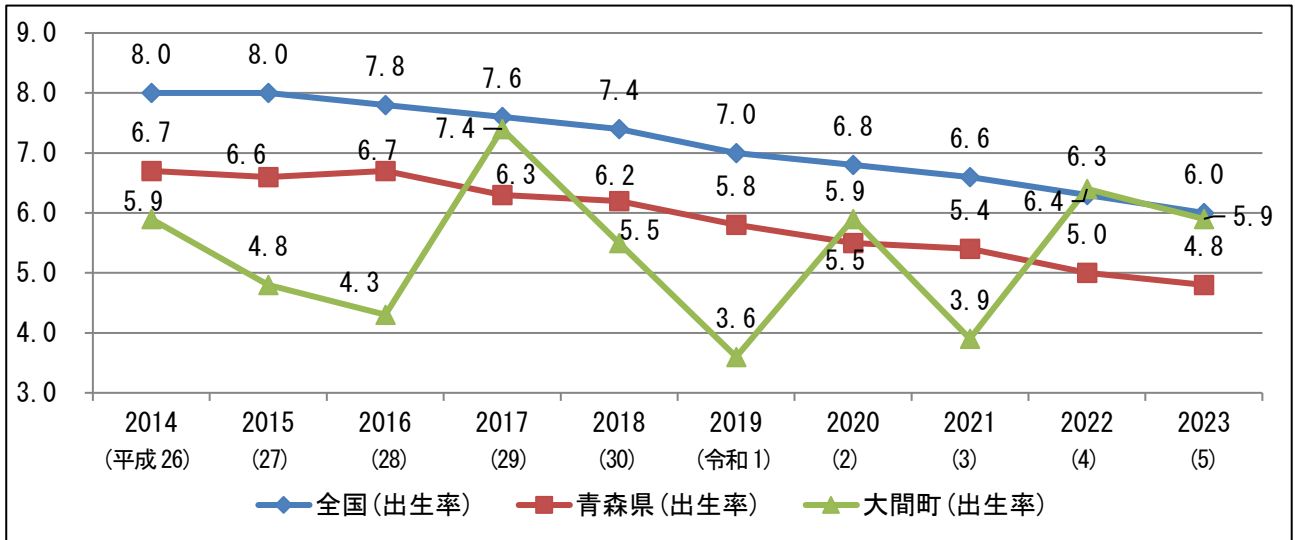
資料：住民基本台帳（総務省）

結婚・子育て関連

<出生率>

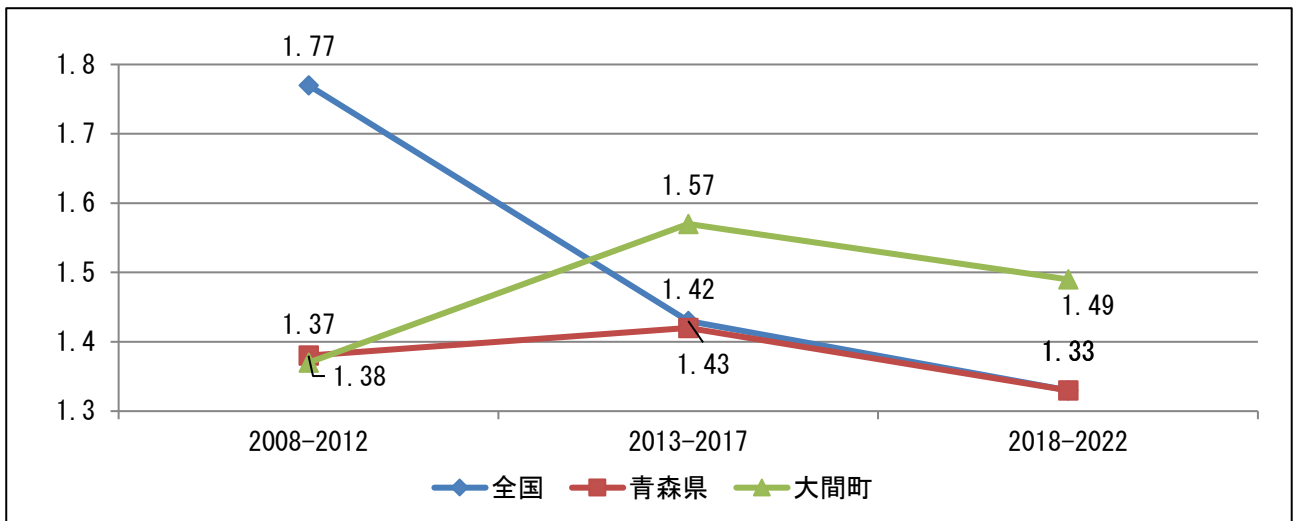
- ・当町の出生率を直近10年でみると、県平均を上回る年もありますが全国平均を下回っています。
- ・一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す合計特殊出生率では、常に全国、県を上回っています。

図 1-6 出生率の推移



資料：住民基本台帳（総務省）

図 1-7 合計特殊出生率の推移



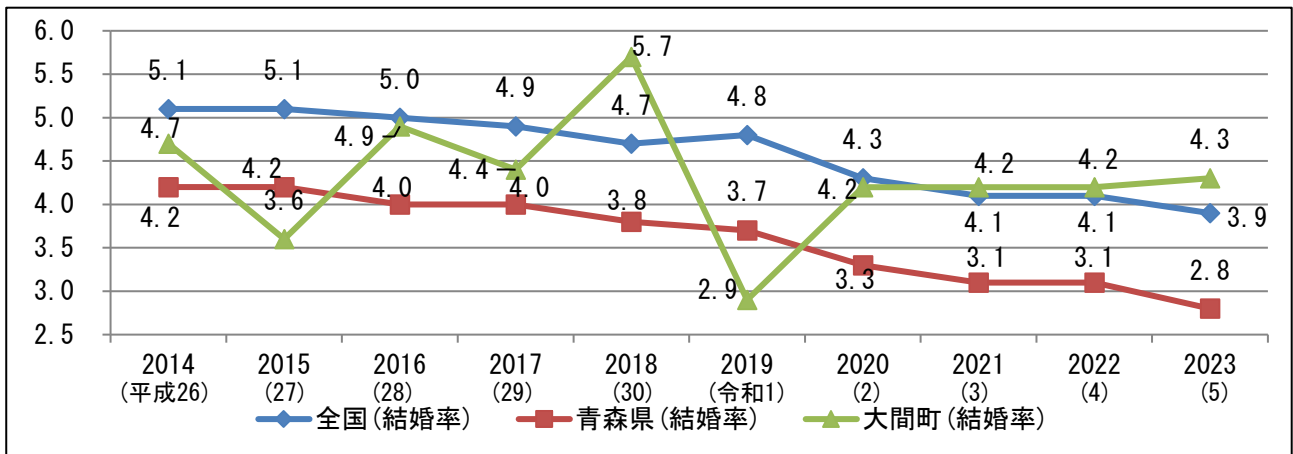
資料：人口動態保健所・市町村別統計の概要（厚生労働省）

注）出生率は、人口1,000人当たりの出生数であり、合計特殊出生率は、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示します。

<結婚率、離婚率>

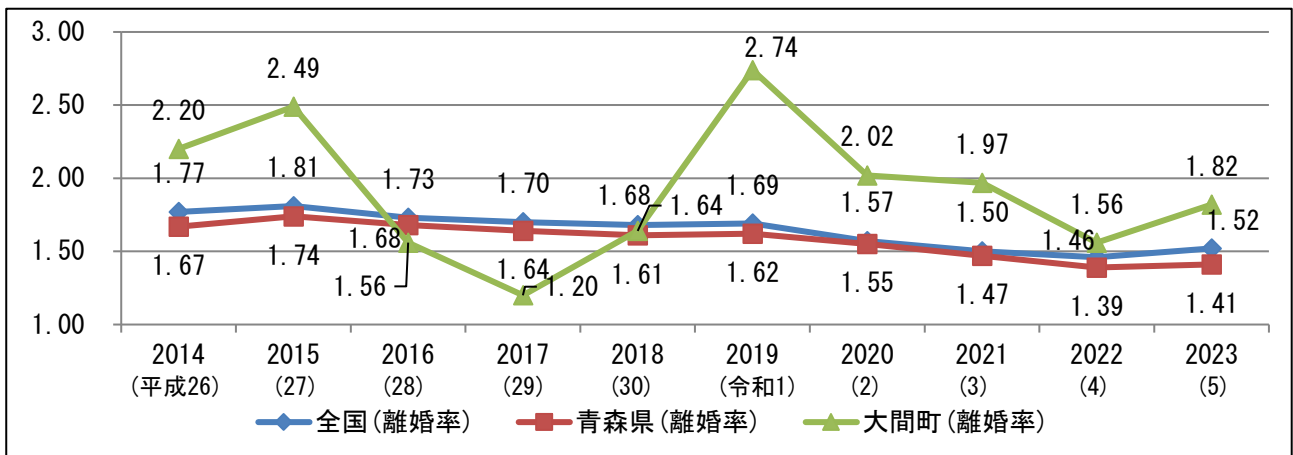
- ・結婚率は、青森県全体として緩やかな減少傾向を続けており、全国より下回っています。当町は、年による増減はあるものの、平均すると4.6、県（平均4.5）とほぼ同じになっています。
- ・離婚率は、全国、青森県と比較して減少していましたが、平成25年で再び上昇しています。

図 1-8 結婚率の推移



資料：住民基本台帳（総務省）

図 1-9 離婚率の推移



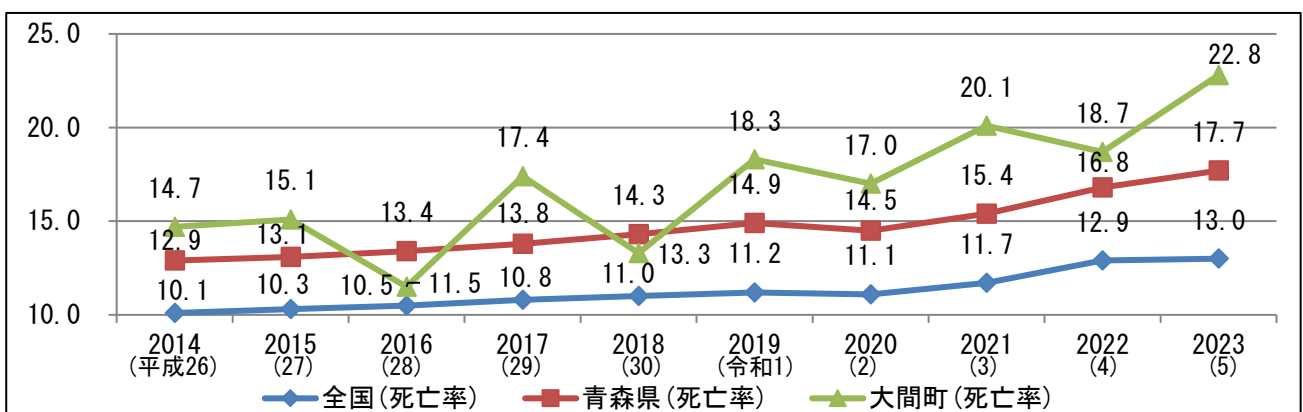
資料：住民基本台帳（総務省）

健康長寿関連

<死亡率>

- ・当町の死亡率は、上昇や下降を繰り返しながら増加傾向にあります。全国平均と青森県平均より高くなっています。

図 1-10 死亡率の推移

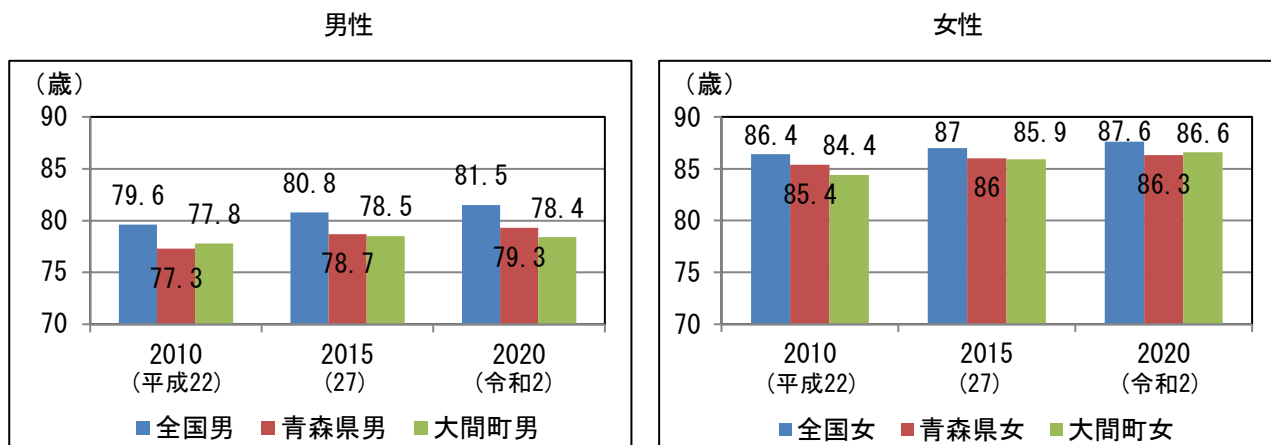


資料：住民基本台帳（総務省）

<平均寿命>

- ・当町の平均寿命の推移をみると、令和2年（2020年）時点で男性78.4歳、女性86.6歳となっており、男女ともに寿命は長くなっており、平成22年(2010年)からの10年間で男性0.6歳、女性で2.2歳、平均寿命が長くなっています。
- ・男女の格差は令和2年（2020年）時点で8.2歳と女性の平均寿命が長くなっていますが、女性の伸びが鈍化しているため10年間で差が縮まってきています。
- ・男性は令和2年（2020年）時点で青森県平均を下回り、逆に女性は県平均を上回っています。

図 1-11 平均寿命の推移

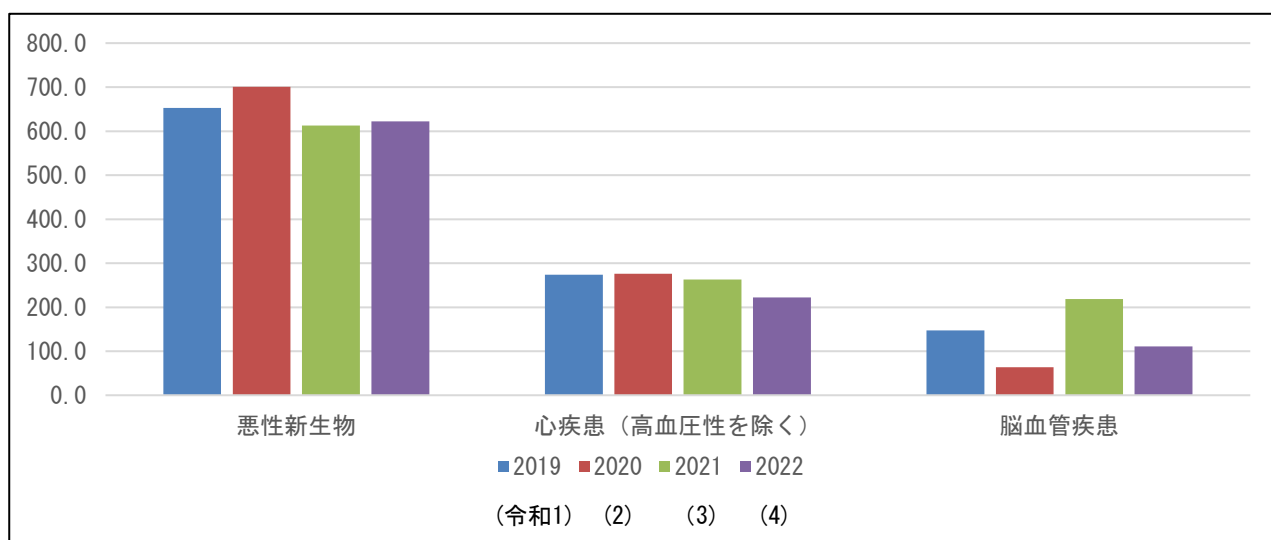


資料：市区町村別生命表（厚生労働省）

<選択死因>

- ・主な死因をみると、悪性新生物、心疾患（高血圧性を除く）、脳血管疾患となっており生活習慣病が上位を占めています。

図 1-12 主な死因



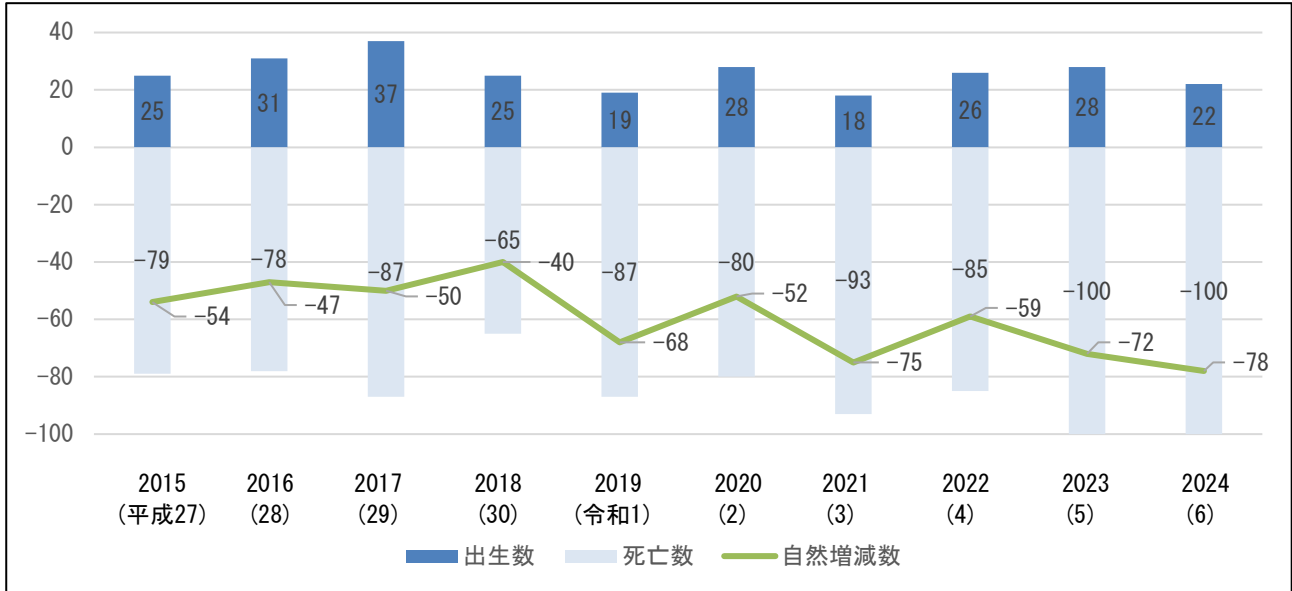
資料：町健康づくり推進課

e. 人口動態

① 自然動態

平成27年（2015年）から令和6年（2024年）の10年間の出生・死亡数をみると、出生数は平成29年（2017年）、死亡数は令和5年・6年が最も多くなっています。10年間の自然増減数の平均値は-59.5人となっています。出生数が最も減少している令和6年は、自然増減数も-78人と最も多くなっています。

図 1-13 出生・死亡数の推移

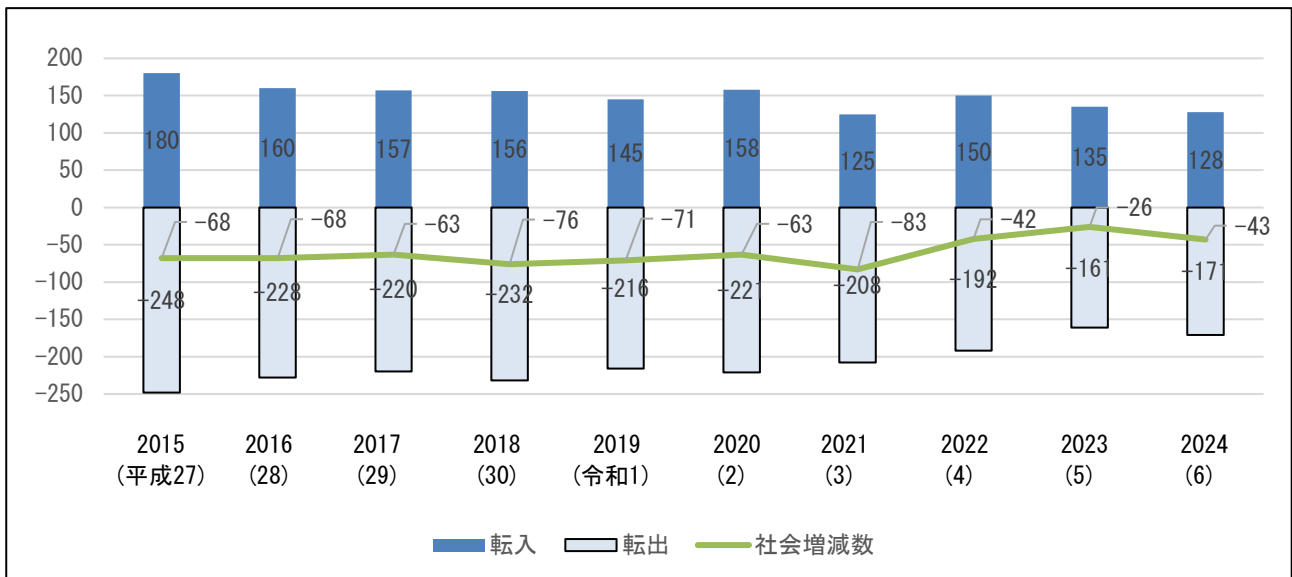


資料：住民基本台帳（総務省）

② 社会動態

平成27年（2015年）から令和6年（2024年）の10年間の転入・転出者数をみると、転入はおおよそ120～180人の間で推移し、転出は年平均でおおよそ-209人となっています。社会増減数をみると、年平均-60.3人となっています。

図 1-14 転入・転出数の推移



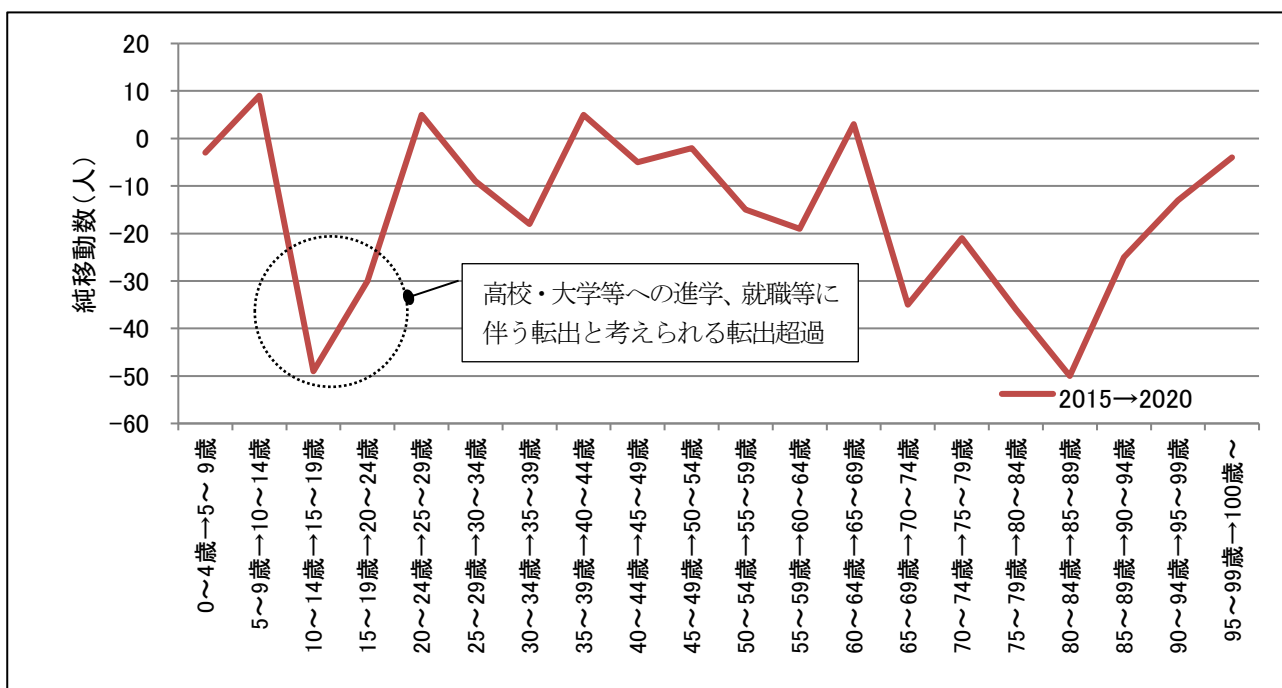
資料：住民基本台帳（総務省）

(2) 年齢階級別の人口動向分析

a. 性別・年齢階級別人口移動の最近の状況

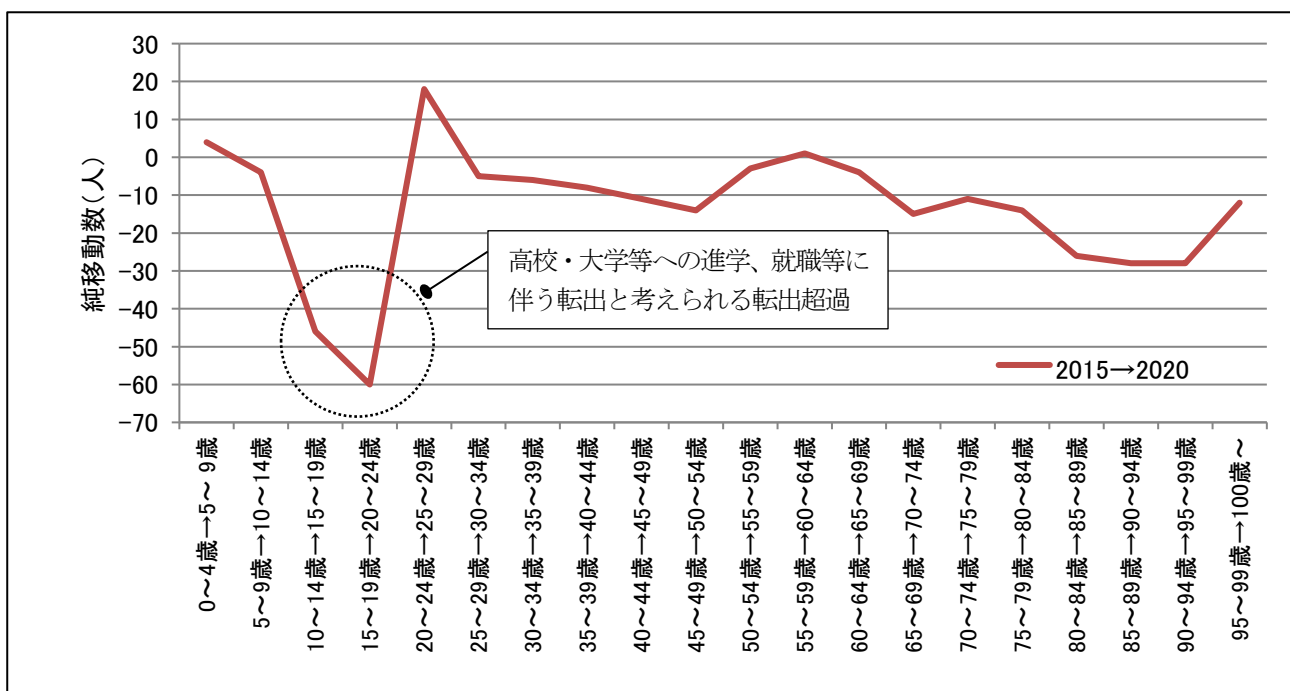
- ・当町では、男性・女性ともに、10～14歳から15～19歳、15～19歳から20～24歳になるときに大幅な転出超過となっており、高校・大学等への進学、就職等に伴う転出と考えられます。
- ・男性では10～14歳から15～19歳、15～19歳から20～24歳になるときを除いて、基本的には転入超過であり、概ね60歳代を境に幅は小さくなっています。女性では75歳以上の年齢段階で転出超過となっています。

図 1-15 平成27年(2015年)→令和2年(2020年)の年齢階級別人口移動(大間町男性)



資料：住民基本台帳人口移動報告(総務省)

図 1-16 平成27年(2015年)→令和2年(2020年)の年齢階級別人口移動(大間町女性)

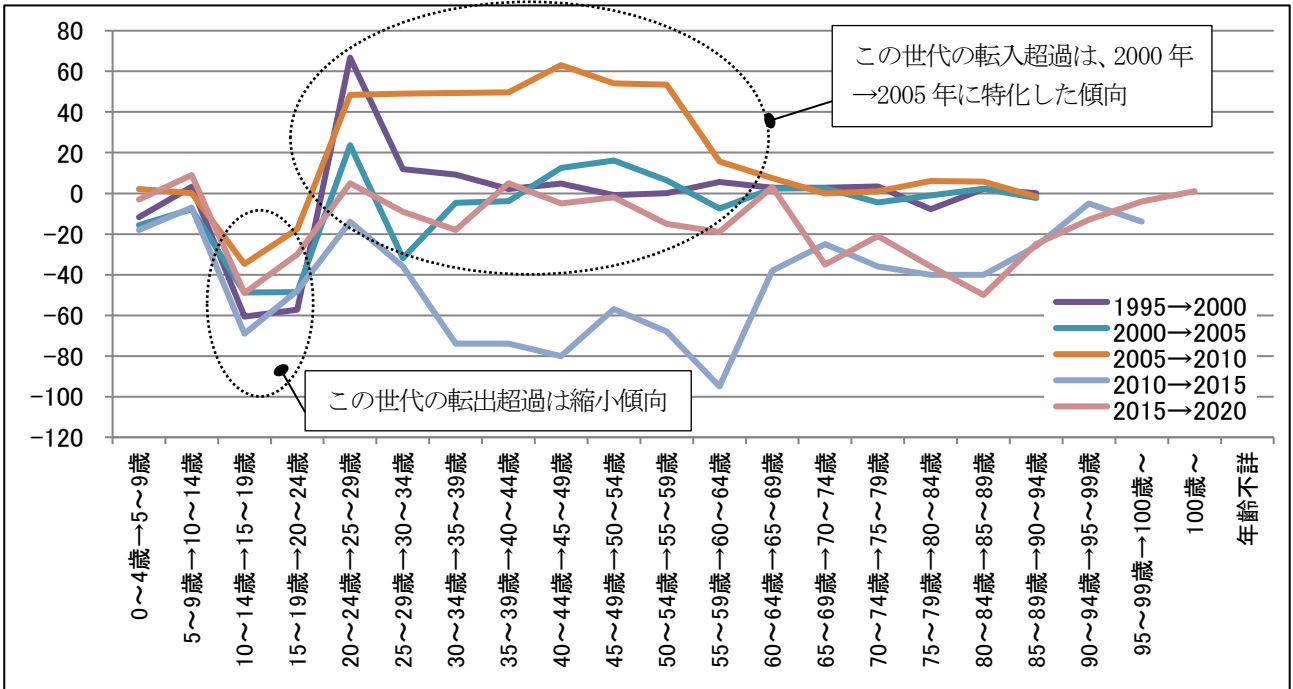


資料：住民基本台帳人口移動報告(総務省)

b. 年齢階級別の人口移動の状況の長期的動向

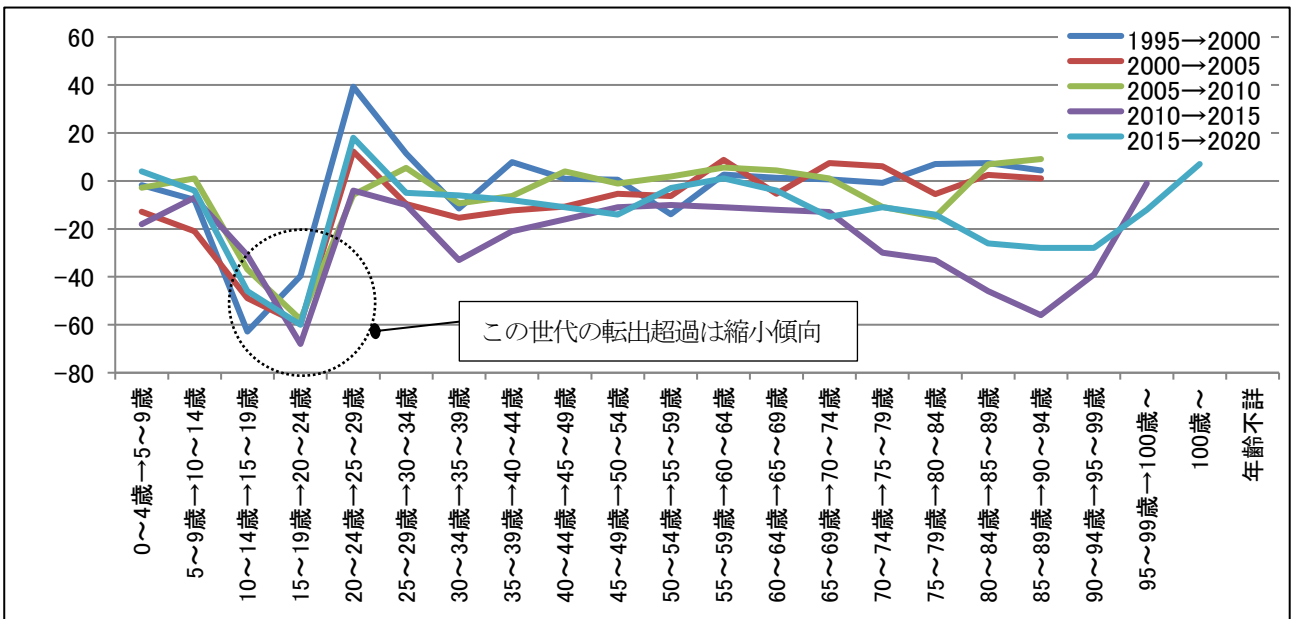
- ・総人口の減少を背景として、男性、女性ともに10～14歳から15～19歳、15～19歳から20～24歳になるときにみられる大幅な転出超過は、経年的に縮小傾向にあります。
- ・男性にみられる20歳代から50歳代までの転入超過は、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）にみられる傾向であり、大間原子力発電所建設工事に起因するものと考えられます。経年でみた場合、男女とも30歳以降で概ね転入出が均衡しています。
- ・若年層（10～14歳から15～19歳、15～19歳から20～24歳になるとき）の転出超過を、その世代以降でカバーできないため全体として転出超過となっていると考えられます。

図 1-17 年齢階級別人口移動の推移（大間町男性）



資料：国勢調査（総務省）

図 1-18 年齢階級別人口移動の推移（大間町女性）



資料：国勢調査（総務省）

(3) 地域別の人口動向分析

a. 市町村別の人口移動の状況

- ・令和2年(2020年)国勢調査の流入先の状況を見ると、むつ市、風間浦村、佐井村からの移動が大半を占めており、通学や通勤によるものと考えられます。
- ・流出先の状況では、むつ市、佐井村、風間浦村への移動が多く、主に通勤によるものと考えられ、人口移動の面では下北地域内との関係が強くなっています。

表1-2 流入者数・流出者数の上位地域

流入先	人数	割合
1位 むつ市	173人	32.6%
2位 風間浦村	168人	31.6%
3位 佐井村	133人	25.1%
4位 青森市	11人	2.1%
5位 東通村	5人	0.9%
6位 八戸市	4人	0.8%
7位 野辺地町	3人	0.6%
8位 おいらせ町	3人	0.6%
9位 福島県広野町	2人	0.4%
10位 十和田市	2人	0.4%
その他	27人	5.1%
流入者総数	531人	

流出先	人数	割合
1位 むつ市	63人	28.5%
2位 佐井村	44人	19.9%
3位 風間浦村	39人	17.7%
4位 六ヶ所村	19人	8.6%
5位 八戸市	8人	3.6%
6位 三沢市	5人	2.3%
7位 東通村	3人	1.4%
8位 青森市	3人	1.4%
9位 東京都江戸川区	3人	1.4%
10位 北海道函館市	3人	1.4%
その他	31人	14.0%
流出者総数	221人	

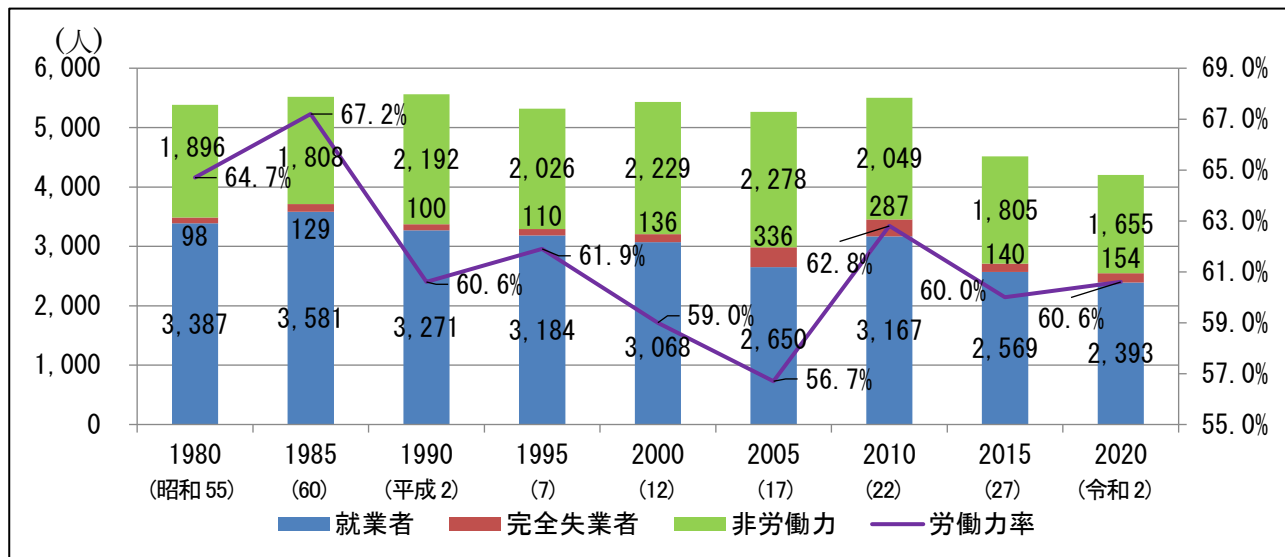
資料：国勢調査（総務省）従業地・通学地集計

(4) 就業人口等産業動向分析

a. 労働力人口

- ・当町の労働力人口は、昭和60年（1985年）以降減少傾向にあり、一時的に平成22年（2010年）で回復をみせています。これは、大間原子力発電所建設工事により労働人口が転入超過となっていることに起因するものと考えられます。

図 1-19 労働力人口の推移



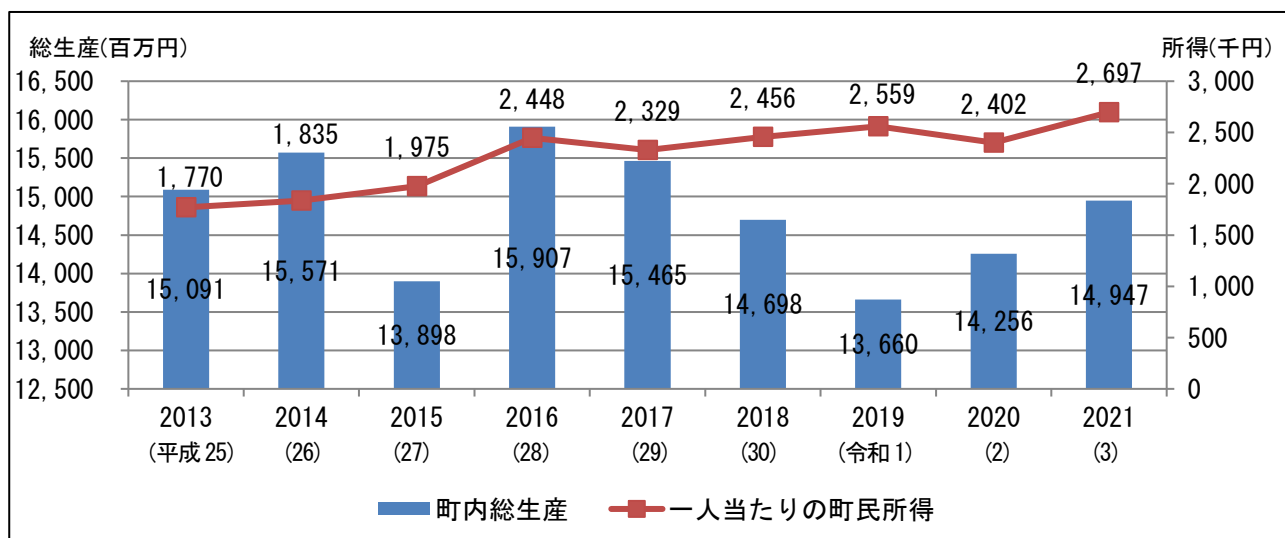
資料：国勢調査（総務省）

注：労働力人口とは15歳以上で、労働する能力と意思をもつ者。15歳以上の人口を生産年齢人口というが、そのなかには主婦、学生など労働能力はあってもその意思をもたない者、あるいは病弱者、高齢者など労働能力をもたない者も存在する。労働力率は、15歳以上の人口に占める労働力人口の割合。

b. 総生産、所得

- ・町内総生産は、平成27年（2015年）、令和元年（2019年）を除き、横ばい、又は減少傾向で推移しており、1人当たりの町民所得では平成28年（2016年）から若干回復傾向を推移しています。

図 1-20 町内総生産、1人当たりの町民所得の推移



資料：青森県県民経済計算・市町村民経済計算

注：1年間に町内で行われた各経済活動部門の生産活動によって新たに生み出された付加価値の貨幣評価額をいいます。これは、町内の生産活動に対する各経済活動部門の寄与を表わすものであって、産出額から中間投入（原材料、光熱費等の経費）を控除したものです。

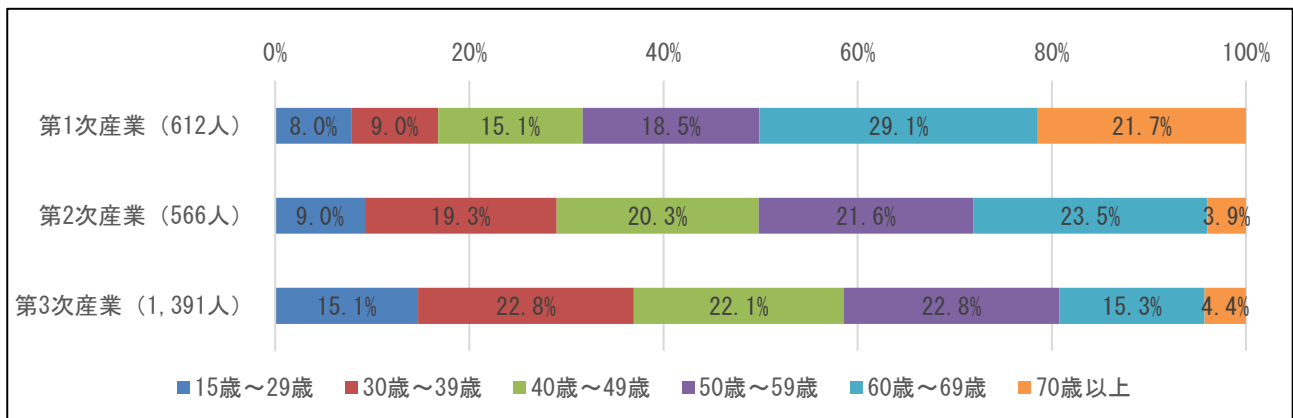
注：人口一人当たり市町村所得は、雇用者報酬、財産所得、企業の利潤等の合計を総人口で除したものであり、市町村経済全体の所得水準を表す有効な指標であるが、個人の所得水準を表す指標ではない。

c. 産業分類別年齢別人口

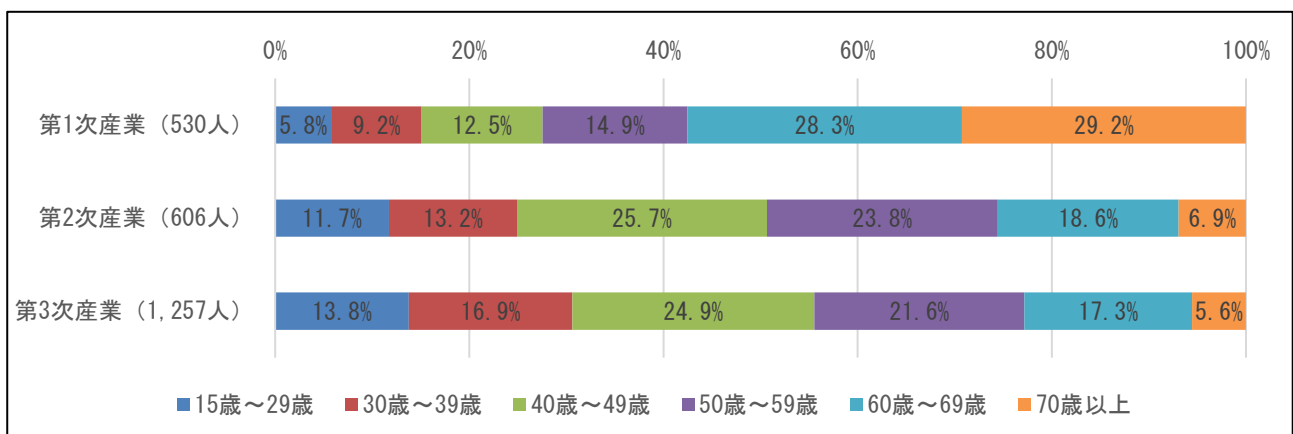
- ・当町の基幹産業である漁業を含む第1次産業は、就業者の減少が顕著で、平成27年（2015年）から令和2年（2020年）までの5年間で約80人減少しています。それに対して、第2次産業は約40人増加、第3次産業は60人就業者が増加しています。
- ・また、第1次産業は、通常定年がなく、元気ならば何歳でも働ける産業で、平成27年（2015年）においても、第2次、第3次産業と比較して高齢化が進行している産業でしたが、平成27年（2015年）現在、高齢化は一層進展しており、50歳以上が約6割強を占める状況にあります。
- ・第2次産業、第3次産業とも、高齢者の比率が高くなる傾向にあります。全体的に年齢層がシフトしているわけではないことから、就業者が固定化されておらず、流動的であることがうかがえます。
- ・具体的な産業として、当町の基幹産業である漁業と、平成27年（2015年）から令和2年（2020年）の5年間で大幅な就業者数の増加を見られる建設業の年齢別人口の推移をみると、漁業では、就業者の減少、高齢化が進んでおり、建設業では、25～64歳までの広い年齢層で、就業者の増加が見られます。
- ・将来的な人口の展望を検討する際は、他地域から大規模な工事のために流入している就業者が、将来にわたって当町に住み続けることは、困難であることを考慮する必要があります。

図 1-21 産業別年齢別人口比率の推移

平成27年（2015年）



令和2年（2020年）

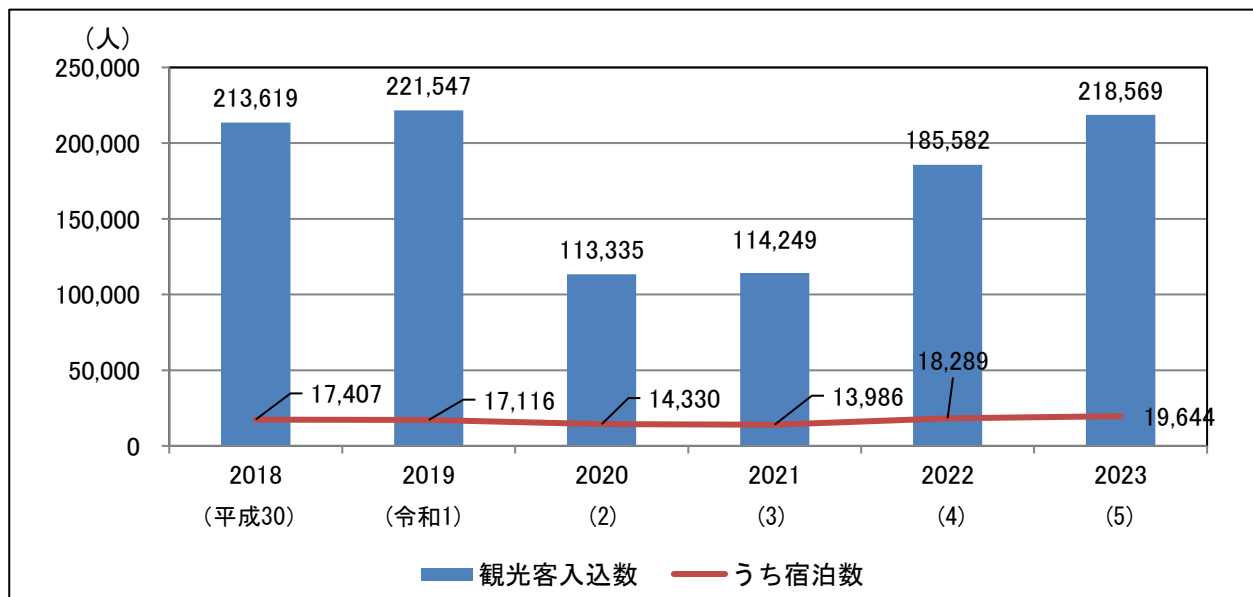


資料：国勢調査（総務省）

d. 観光入込客数

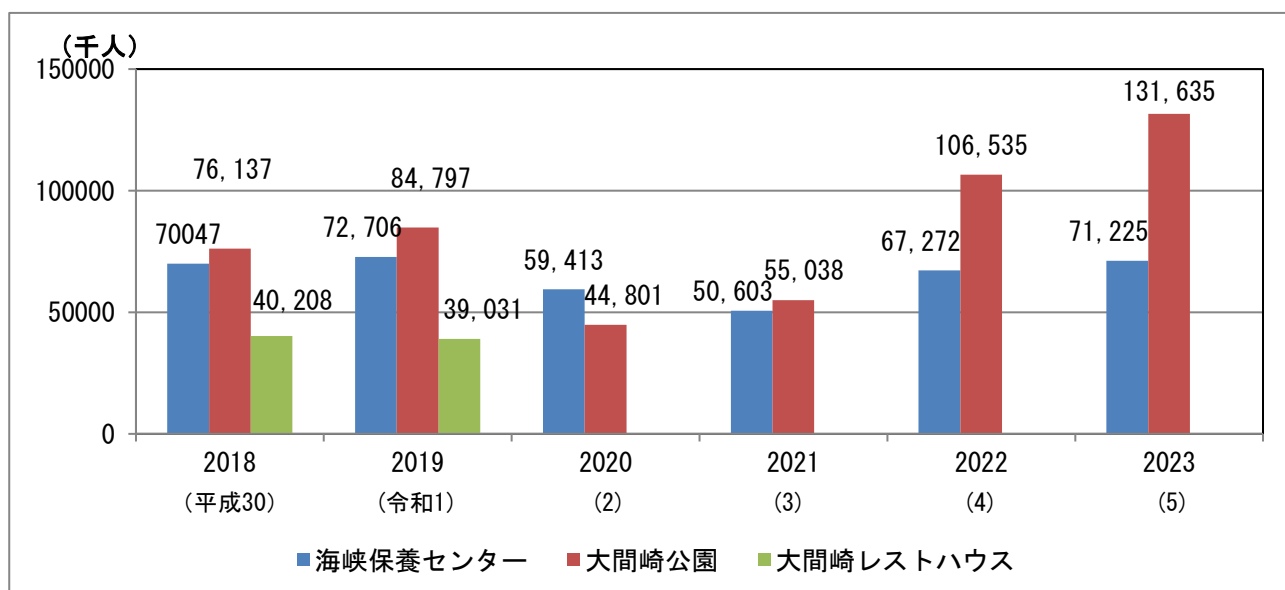
- 青森県の観光統計によると、観光入込客数は、観測地点の延べ人数であるため単純に実数の比較はできませんが、当町の観光入込客数は、平成30年（2018年）で延べ約21万人でしたが、令和2年（2020年）から新型コロナウイルス感染症の影響で入込客数は一時落ち込んだものの、令和5年（2023年）にはコロナ前の状況まで回復しています。
- 観光地点別でみると、海峡保養センターや大間崎公園はコロナ前の状況までの回復を見せています。
- イベント別では、令和元年（2019年）頃から新型コロナウイルス感染症対策として様々なイベントが中止となり調査できませんでしたが、今後は徐々に回復すると予測しています。

図 1-22 年次別観光入込客数の推移



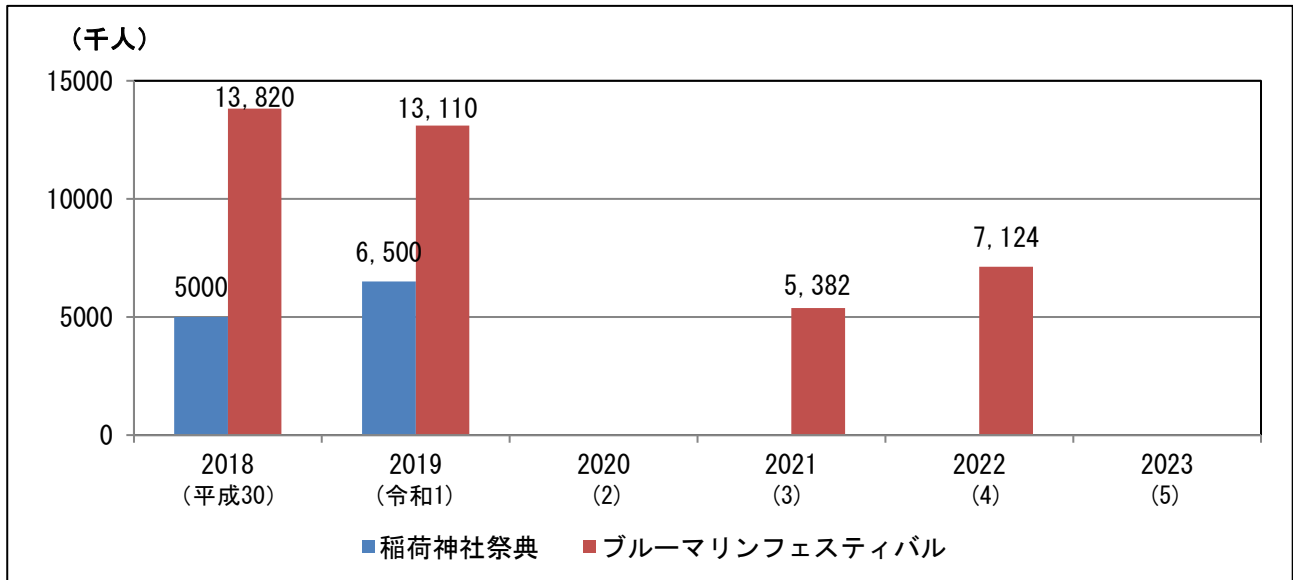
資料：青森県観光入込客統計

図 1-23 観光地点別観光入込客数の推移



資料：青森県観光入込客統計

図 1-24 イベント別観光入込客数の推移



資料：青森県観光入込客統計

(5) まとめ

大間町における人口動向・構造の特性と課題

<特性>

○総人口

・本町の総人口は昭和35年(1960年)を7,982人から一貫して減少が進んでおり、令和2年(2020年)には4,817人にまで減少(60年間で3,165人の減少)しています。

○人口構造

・年少人口、生産年齢人口ともに一貫して減少しています。老年人口は増加が続き、平成12年(2000年)以降は年少人口を上回っている状況であり、令和32年(2050年)では、老年人口が総人口に占める割合は58.6%、年少人口は4.5%以下と少子高齢化が進行していきます。

○出生・死亡

- ・出生数については、昭和55年(1980年)以降、概ね減少を続けており、平成25年(2013年)以降は30~40人程度で推移していましたが、令和6年(2024年)では22人となっています。
- ・死亡数については、死亡数は概ね増加傾向となっており、令和6年(2024年)では100人となっています。
- ・平成11年(1999年)以降は、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています。

○転入・転出

- ・転入・転出については、概ね減少傾向が続いています。

○産業

・産業については、町の基幹産業である漁業を含む第1次産業は、就業者の減少が顕著で、減少しています。また、現在、高齢化が一層進展しており、50歳以上が約85%を占める状況にあります。

・将来的な人口の展望を検討する際は、他地域から大規模な工事のために流入している就業者が、将来にわたって当町に住み続けることは、想定しにくいことを考慮する必要があります。

<課題1>

○人口減少への対応

- ・今後の人口政策としては、出生数の増加及び転入促進・転出抑制が重要になってきます。

○高齢化への対応

・高齢者人口は既にピークを迎えているものの、総人口の減少に伴い、高齢化率は今後も上昇、もしくはほぼ横ばいで推移していくことが見込まれています。高齢化率の上昇を抑制するためにも、出生数の増加や若い世代の人口増加を図るための取組が重要になります。

○少子化への対応

・出生については、積極的な少子化対策を図る必要があり、経済的支援、各種子育て支援サービスの充実等、子育て環境の向上を図るとともに、若い世代の未婚化・晩婚化を抑制するための婚活支援の取組が極めて重要になると考えられます。

<課題2>

○人口減少による地域への影響

・人口減少は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口も減少することから、結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活における様々なサービス・利便性が低下していくとともに、こうした町内の機能・生活機能の低下により、さらに人口の流出に拍車をかけるという悪循環に入り込むことが危惧されます。また、人口の問題は規模だけの問題ではなく、人口の年齢構造の問題でもあり、このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービス需要の問題だけではなく、長期的に安定的な人口規模を維持するという観点からも少子高齢化を抑制し、人口構造を健全化する必要があります。

2 将来人口展望

(1) 人口のシミュレーション

推計の目的と方法

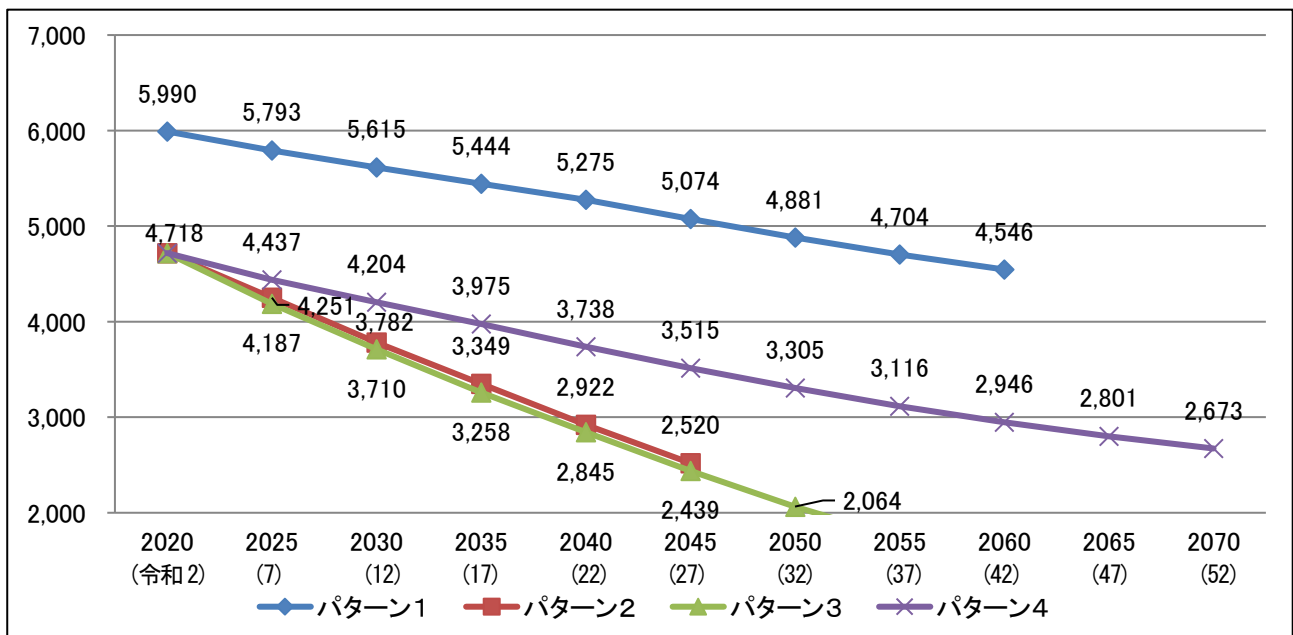
- ・人口ビジョンを改訂するにあたり、「地方版総合戦略の策定等に向けた人口動向分析・将来人口推計の手引き(令和6年6月版)」に基づき、国から提供されたワークシートを活用し、将来人口を推計しました。
- ・シミュレーション結果は下図のとおりですが、比較として第1期人口ビジョンの数値と社人研、地域経済分析システムRESASの推計値を掲載しています。

表 2-1 総人口の推計結果

	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
パターン1	5,990	5,793	5,615	5,444	5,275	5,074	4,881	4,704	4,546		
パターン2	4,718	4,251	3,782	3,349	2,922	2,520					
パターン3	4,718	4,187	3,710	3,258	2,845	2,439	2,064	1,733	1,444	1,184	950
パターン4	4,718	4,437	4,204	3,975	3,738	3,515	3,305	3,116	2,946	2,801	2,673

パターン1 第1期人口ビジョン独自推計	<ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率が令和2年(2020)年までに1.8まで上昇し、令和12年(2030)年までに人口置換水準(2.07)まで上昇すると仮定 ・平均寿命は、平成52年(2040)に全国平均(国の長期ビジョンでの想定値:男性82.82歳、女性89.55歳)並みになると仮定 ・人口移動は、移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移すると仮定
パターン2 地域経済分析システムRESAS人口推移	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。
パターン3 社人研推計	<ul style="list-style-type: none"> ・社人研「国立社会保障・人口問題研究所」推計準拠
パターン4 人口ビジョン改定版シミュレーション推計	<ul style="list-style-type: none"> ・国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンの合計特殊出生率の上昇を2030年に1.80、2040年以降2.07とし、移動は0と想定。 ・国から提供されたワークシートで推計。

図 2-1 シミュレーションの推計結果



(2) 将来人口の展望

戦略人口

少子高齢化、転出超過といった本町の人口問題に対して、以下の戦略推計を長期的視点から取り組むことにより、令和22年(2040年)において3,700人程度、令和42年(2060年)において2,800人程度の人口規模を目指します。

図 2-2 総人口の推計結果 (パターン3、戦略推計)

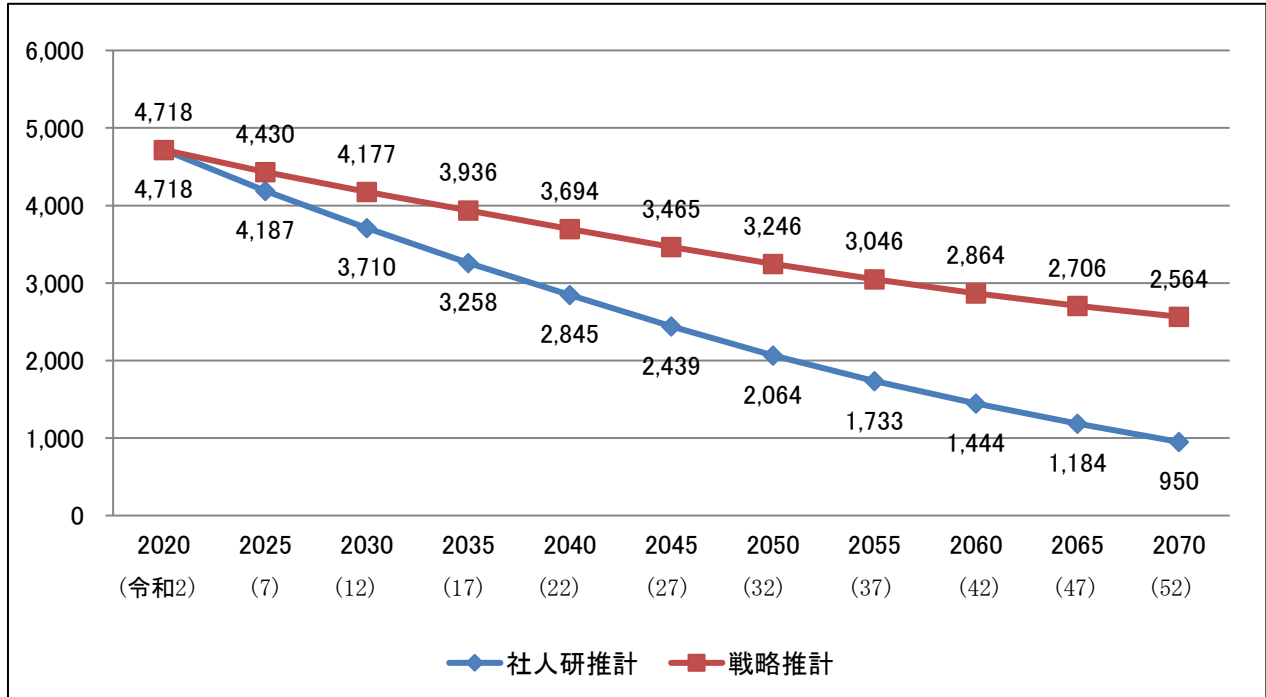


表 2-2 総人口の推計結果

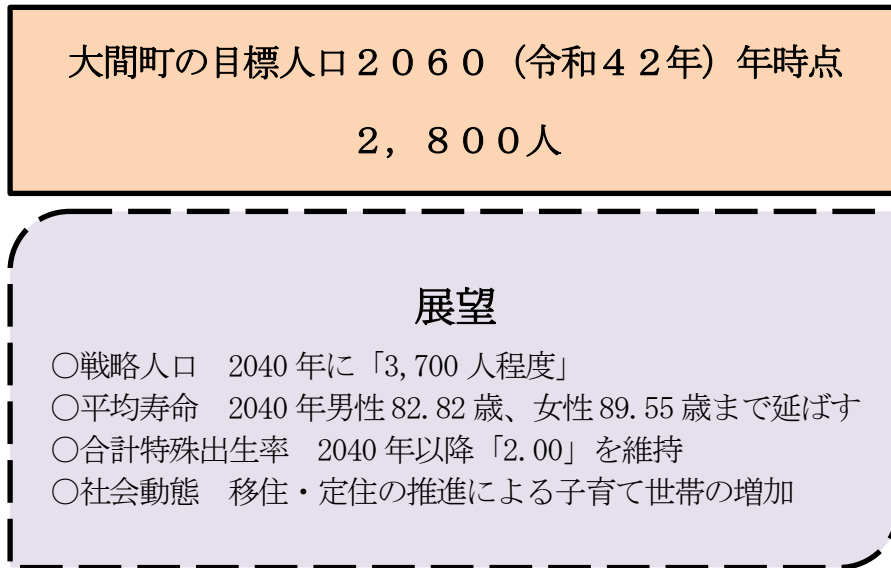
	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
社人研推計	4,718	4,187	3,710	3,258	2,845	2,439	2,064	1,733	1,444	1,184	950
戦略推計	4,718	4,430	4,177	3,936	3,694	3,465	3,246	3,046	2,864	2,706	2,564

※社人研「国立社会保障・人口問題研究所」

出生	<ul style="list-style-type: none"> 青森県基本計画 2024 に掲げる 2040 年に向けた合計特殊出生率が 2.0%以上を目標に 2040 年以降は 2.0 で維持し、以下のとおり 0.1%ずつ上昇するものと仮定。(2025 年 1.7%、2030 年 1.8%、2035 年 1.9%)
移動	<ul style="list-style-type: none"> 移動は 0 と想定。

(3) 大間町が目指す目標人口

これまでの検討を踏まえ、本町の目標人口は、中間目標としては令和22年(2040年)時点で3,700人程度とし、最終目標として令和42年(2060年)時点で2,800人程度とします。



【目指すべき将来の方向】

基本方向1 若い世代が安心して戻ってこれる地域に根付いた産業を活かした雇用の場づくり

県外、町外への転出防止やUターンの促進により人口の社会減を減少させ、社会増を目指すためには、生活の基盤となる雇用の場の創出・安定した収入の確保が重要となります。

そのため、当町では、新たな産業を町に誘致するのではなく、すでにブランドとして確立しているマグロを活用したり、本州最北端という立地特性を活用して、基幹産業である漁業を中心とする第1次産業の活性化を図るほか、既存の産業から派生し、新たな雇用や収入を生み出す産業の誘導を進めます。

基本方向2 町への愛着心を育み、より多くの人に知ってもらうための情報の発信

町への居住意向が高い人は、愛着度も高くなっています。一方で若年層が就職や進学のため転出する状況にあり、その後、Uターンが人生のプランの選択肢の一つとなるよう中高校生の町への愛着心を育むよう取り組みます。

また、北海道新幹線開通による観光入込客数の増加、この交流人口の増加を移住や季節居住に結び付けられるよう、より多くの人に町の魅力を知ってもらうための情報を発信します。

基本方向3 結婚・出産・子育ての支援策の充実と暮らしやすい住環境の整備

町内に居住する若い人が、安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備・充実させるよう取り組みます。

また、当町に住んでみたくなるよう当町における多様な住まい方、働き方を確保するため、町民の評価の高い地域コミュニティと豊かな自然を保全しながら生活しやすい住環境を充実させるよう取り組みます。

基本方向4 誰もが安心して楽しく老いを迎えられる健康長寿の環境づくり

すべての高齢者が、元気で健やかに暮らすことは、町内の消費活動が確保され、定年退職のない第1次産業の維持、ひいては人口の自然減の減少につながります。高齢者の健康に対する意識を醸成し、健康づくりに参画することで、病気に負けない健康なまちづくりに取り組みます。

発行：大間町

連絡先

郵便番号：039-4601

住所：青森県下北郡大間町大字大間字奥戸下道20番地4

電話番号：0175-37-2111

FAX番号：0175-37-2478

ホームページ：<https://www.town.ooma.lg.jp>

